

皮膚科



診療科紹介 HP

診療部長紹介

診療部長の門野岳史です。東京大学を1992年に卒業し、2015年にこちらに赴任いたしました。2018年4月に前任の相馬良直先生から診療部長を引き継いでおります。皮膚悪性腫瘍が専門分野で、診断、手術、薬物治療の3本柱にバランスよく取り組んでいます。留学中は皮膚免疫に携わっており、アトピー性皮膚炎、乾癬などの炎症性皮膚疾患にも強みを持っています。もちろんそれ以外の皮膚疾患に対しても幅広く対応致しますので、ご紹介よろしく願いいたします。



診療部長

門野 岳史 (主任教授)

診療科の特色

当科では腫瘍、炎症性疾患から蜂窩織炎や带状疱疹といった皮膚感染症まで皮膚疾患全般を診療し、必要に応じて入院加療を行っています。特に力をいれているのが悪性黒色腫や皮膚リンパ腫などの皮膚悪性腫瘍の診断と治療です。診断から手術や薬物治療まで幅広く対応しています。近年、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬の登場により、以前よりも治療の選択肢がかなり広くなりました。アトピー性皮膚炎や乾癬に対しても、外用療法を基本として、幅広い生物学的製剤や分子標的薬を適切に用いています。また、臨床試験にも積極的に参加しています。皮膚科領域でも様々な新薬の登場により、今まで諦めていた皮膚疾患に対しても良い治療効果が得られるようになりましたので、ご紹介頂ければ幸いです。

患者さんのご紹介について

 聖マリアンナ医科大学病院
ST. MARIANNA UNIVERSITY HOSPITAL

 044-977-8111 (代表)

紹介受付時間：平日 8:30～15:00
土曜 8:30～11:00

 044-975-0608

医療機関からのWEB予約サイトはこちら



 聖マリアンナ医科大学病院
患者さんの紹介について

お問い合わせ先：メディカルサポートセンター



○対象疾患および治療法

・悪性黒色腫

術が基本になります。進行例で手術が難しい場合は免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬を中心とする集学的治療を行います。

・皮膚リンパ腫

ステージに応じて専門性の高い治療を行っています。早期例では外用療法や紫外線療法が中心になりますが、進行期では種々の抗悪性腫瘍薬を病状に応じて使い分けていきます。

・アトピー性皮膚炎

外用療法が中心になりますが、重症例に対しては生物学的製剤やJAK阻害薬などを活用して治療を行います。

・乾癬

外用療法が中心になりますが、重症例に対しては様々な生物学的製剤が用いられるようになり、個々の患者さんの事情に応じた治療を行います。

・膠原病・血管炎

皮膚症状が中心の患者さんに対して、ステロイドや種々の免疫抑制薬を活用した治療を行います。

・色素性病変に対するレーザー治療

太田母斑、異所性蒙古斑、扁平母斑といった黒を基調とする病変に対しては、Qスイッチルビーレーザーを用い、毛細血管奇形、乳児血管腫、毛細血管拡張症など赤を基調とする病変に対しては、Vビームレーザーを用いた加療を行っています。